

Amir Tsarfati 氏 中東アップデート 2016年 12月 19日公開

在トルコロシア大使暗殺！緊張高まる

イスラエルより、こんばんは。私は今、地球の中で最も低い所にいます。つまり、死海にいるのです。異常事態が発生したので、それについてお伝えします。トルコのアンカラで、一時間ほど前に在トルコ・ロシア大使が銃殺されました。彼はアンカラの画廊で演説中でした。シリアで、ロシアがやっていることに対して反感を抱いている人は、トルコの中にたくさんいますから。ロシアはシリア派軸の味方をしており、スンニ派を圧倒的に攻撃しています。ロシアは、イランやヒズボラ、それからバシール・アサド大統領率いるグループ・アラウィー派と手を組んでいるので、スンニ派は今、ロシアを彼らの敵とみなしているのです。そしてここ数日、スンニ派トルコ人による大規模なデモが行われています。彼らはシリア入りして、ロシアと戦おうとしていました。ですから、今回のようなことが起こっても、特に驚くに値せず、明らかにこれはロシア対トルコではありません。私はそのようには見ていません。

昨年起こったロシア戦闘機撃墜事件（2015年11月24日、ロシア空軍機 Su-24 がトルコ軍に撃墜された）に関して、ロシアは少し前にエルドアンからの謝罪を受け入れ、彼らは和解したところですから。しかし、明らかに私たちには見えていない事、メディアが伝えていない事があります。実際には、トルコでは現在、内戦が起こっており、今あちらでは大きなテロ攻撃が起こらない日はありません。先週だけでも、2つの大きな爆破事件があり、複数のトルコ人ガードマンや警察官、兵士が殺害されました。そして、それらのほとんどが、エルドアンがクルド人に対して行っていることに敵対するクルド人戦士、反対勢力の犯行なのです。また、エルドアンは、アレッポで市民に対して行われたことを批判しています——事実、市民はこの闘争で人質のように捕われています——しかし、エルドアンも、トルコの南東部でクルド人に対して同じことを行っているのです。トルコはほぼ完全に分断されています。世俗的なトルコ人は、クルド人の町を絶対に訪れません。そしてクルド人の多くは、トルコの大都市に足を踏み入れることさえ許されていないのです。そして、今、私たちが目にしてるのは、クルド人とアラブ人間での大戦争です。これら全ての事は、「アラブの春」やシリアで起こっていることなどに扇動されています。先週は、兵士で満員だったバスに接続された車が爆破され、15人の兵士が死亡しました。繰り返しますが、これはただのテロ攻撃ではないのです。

これは戦争です。トルコ南東部から、トルコ人を追放しようとしているのです。理解しなければならないのは、PKK（クルド労働者党）の年配者は軟化しています。彼らの指導者アブドラ・オジャランはまだ刑務所に入っていますが——クルド人街でトルコ兵によって行われてきた残虐行為を目撃してきた若い世代は怒りに満ちて、それがまさにこういったテロ行為へと彼らを駆り立てています。元 PKK がトルコ国内で基本的に2000万人近くのクルド人の反対勢力となっており、エルドアンは国会内で敵である彼らの政党を快く思っていないことを理解しなければなりません。つまり、HDP、民主的諸地域党です。さらにエルドアンは町の中で民族浄化のようなことを行っていたことも分かっています。その町のいくつかは彼が破壊し、ゴーストタウンと化しています。つまり、トルコは現在流血の惨事下にあり、内戦状態なのです。もちろん、クルド人対トルコ人政権です。

暗殺者が在トルコロシア大使を暗殺しただけでなく、政権に恥をかかせたとしても、私は驚きません。そ

れでも私たちが真に見なければならぬのは、トルコ前線で実際には、物事が一方で悪化し、もう一方ではエスカレートしているということです。そしてこれがエルドアンに戦争を余儀なくさせているのです。また、トルコ経済は下落し、基本的には崩壊中です。観光客が激減し、投資家が激減しています。ヨーロッパ連合は今、移民によって起こっている戦いのために、彼らを受け入れられないからです。ですからトルコは今、瀬戸際まで来ているのです。そして、そこまで追い詰められた国というのは大変危険で、危ない動きをするのです。また、プーチンにはプーチンの問題があって、彼の現在の問題はロシア経済。トルコも経済問題、イランもまた経済問題を抱えています。これらの問題がこの三国を駆り立て、切望させ、何らかの形で彼らの状況改善のために——私は今、とても言葉を選んで伝えようとしているわけですが、それでもやはり、戦争という言葉が一番しっくりくるでしょう。ですから、エゼキエル書を見て、これらの3か国の連帯を見ると、今現在、好むと好まざるとに関わらず、彼らは協力し合っています。それは、彼らが現在シリア入りしている主要国だからです。これを見て、私は大して驚きもしません。

また、皆さんにお伝えしたいのは、今はヨーロッパでも様々なことが起こっています。ヨーロッパ人は、今あちらでイスラムが立ち上がっていることに対して激昂しています。そのために起こっている問題、移民問題。つい数分前にも、スイスのチューリッヒにあるイスラム中心街で銃撃があり、多数の人が負傷しました。ヨーロッパ中で様々な惨劇が起こっているのを耳にします。人々は「もうたくさんだ！」「我々はヨーロッパがイスラムに乗っ取られることは望んでいない！」と叫んでいます。このように、ヨーロッパ人とイスラム教徒との緊張は高まっており、トルコ国内でもクルド人とトルコ人との緊張が高まっています。そして、シリア国内でも緊張感——現在、皆がアレッポの崩壊を「大勝利」「シリア内戦の終結」のように見せかけていますが——言っておきますが、シリアにはまだ10万人の反政府軍、また何万何十万という数のISISのメンバーもいて、そんなに簡単には終わりません。事実、私が思うに、簡単な部分は終わったでしょうが——最も深刻な状態は抜け出たでしょう——人々は今、本気になって、何らかのもっと危険で破壊的な、機関銃や武器へと手を伸ばそうとしています。そして、これがイスラエルが目を光らせている部分です。まさにこれが、我々が新しいF-35を所有する理由です。というのも、現在我々は、この先また残りが届けばさらに、ロシアが持ち込んだ多くの最新兵器や、イランがシリアに持ち込んだこれらのレーダーに引っかかることなく、我々のすべきことが行えるのです。

おもしろいことに、イスラエルは、これらの狂気的な環境の中でも唯一、平和なところでは。現在の我々の問題は雨です。しかし、我々の周りでは、今、大変なことが起こっています。前回もお伝えした通り、イスラエルは現在、異なる地域の様々な国家と関係を結んでいます。ギリシャやキプロスと協議を結んだだけでなく——これに関してだけでも、トルコは快く思っていないのですが、我々は中央アジアのイスラム教国アゼルバイジャンとも国交を持ち、彼らはイスラエル製のアイアンドーム（防空システム）を購入しました。それだけでなく、イスラエルは世界で9番目に大きな国土面積を持つカザフスタンにも行きました。これら全ての事が示しているのは、基本的に中東での対立は、エゼキエル38~39で記載されている国を孤立させることになっているということです。ですから、面白いことに、エゼキエルが示したこれらの国々の中で緊張感が高まる中、イスラエルは繁栄し、その支持者を増やしているということです。これまでで初めて、人々がやって来て、親イスラエルだと言うだけでなく、我々と取引することを望んでいると、世界に宣言しているのです。そのことによって、ロシアはさらに我々に対する不満を募らせることとなります。今現在、イラン、ロシア、トルコが手を組んでおり、イスラエルが彼らの目に「間

違った行動」を起こしさえすれば、「中東での我々（これら3か国）の栄光、我々の経済を奪い取る問題児（イスラエル）を消してしまおう！」ということになります。ですから、今起きていることに注視しています。

一方で、見るに堪えかねるのですが、ここ24時間のうちにアレッポで起きていることには少し励まされます。5000人の人々が「穏やかに」市街の外に救い出されました。しかし、他の人々が殺され、惨殺されていることを聞くと、胸が張り裂けます。興味深いことに、ロシアがようやく、海外の平和監視機関が立ち入って市民が市街から避難することを見届けることを、許可しました。そのことで、全世界から人々がやって来て、アレッポがただ崩壊しただけではなく、アレッポの住民を移動させていることの証人となっています。アレッポの町は完全にゴーストタウンとなり、破滅します。そして、今現在アレッポで起きていることが将来的にダマスカスで起こるのでしょうか。預言者が告げた通りです。

1…ダマスコは取り去られて町でなくなり、廃墟となる。

（イザヤ 17:1 後半）

というわけで、非常に多くの事が起こっています。実に興味深く、魅了的であります。そしてもちろん、緊張が高まることに恐れを感じている人は、危機感を募らせていることでしょう。それでも私は平穩の中にいます。我々の国の中は安全で安心だと感じていますから。私たちは周囲で起きていることに目を開いて見張っていますし、まさにこのためにネタニヤフ首相が国交を広げて、他国と取引しようとしている理由です。サウジアラビアまでもが、公にイスラエルと対話をしていますし、湾岸諸国でさえ、現在起きていることを見極めて「イスラエルが一番問題が少なく、それ以上に友好国として信頼できる」とまで言い始めました。ですから、イスラエルにとって、ずっと敵であった国々——我々を敵国と見なし、「サタンだ」と見ていた国々が——今は我々を見て、「ロシアやイランがシリアに入り込み、スンニ派の人々を大虐殺していることを思えば、イスラエルはそれほど悪くないのかもしれない」と言っているのです。そういうわけで、イスラム界の85%を占めるスンニ派の大半が我々を以前とは違う見方で見ています。それでも、私たちが覚えておかなければならないのは、トルコはスンニ派、リビアもスーダンもスンニ派だということ。ゴグが行動を開始する時、これらの国々のいくつかが、イスラエルに対峙してきて、エゼキエルが預言した通りの戦争が起こります。

興味深い展開が起こっています。いつも言うようにダマスカスに目を向けてください。トルコ、イラン、イラクのモスルで起きていること、ISISが行っていること、これら全ては最終的にダマスカスで起こることに何らかの形で影響を与えます。前にも言った通り、エゼキエル戦争が始まるためには、ダマスカスが「台風の目」となるのです。ですから、イザヤ書17章が先に起こる必要があるのです。それによって、なぜエゼキエル38の中にはシリアが出て来ないのか、説明がつきます。エゼキエル戦争が始まる時には、シリアは基本的に国としてもはや体裁をなさないのです。以上がお伝えしたかったことです。

在トルコロシア大使が一時間前に暗殺され、たった今死亡が確認されました。未だに何人かが犯人によって人質に取られています。様々な事が現在進行中です。目を見張っておいてください。トルコ自身は

認めていないのですが、先ほどもお伝えしました通り、内戦状態です。繰り返しますが、約 2000 万人のクルド人がトルコ政府による扱いに不満を抱えています。ほかにも興味深いことが起こっています。先ほども言いましたが、イスラエルは安全・安心で、今、インドネシアとシンガポールからの 90 人の人たちを案内しているところです。ヨルダンでのテロ攻撃、エジプト・シナイでのテロ攻撃、それから当然、シリア、レバノン、トルコでのテロ攻撃、我々の周りでは事態がエスカレートしています。それでも神を褒め称えます。

4 見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。

(詩篇 121:4)

皆さん、どうか Behold Israel のアプリをダウンロードしてください。中東で起こっていることをお伝えしています。それから、Behold Israel.org より、ニュースレターをご登録ください。他にも Facebook、Instagram、ウェブサイトもあります。世界中の人々に、実に様々なことをお伝えできることに、とても勇気もらっています。それから、ご存じの通り、ヨーロッパに対する私の想いは——ヨーロッパから反キリストが起こりますから——今現在、ヨーロッパからどんどん招待を受けています、ヨーロッパにはクリスチャンがそれほどいないことを考えても、それだけでもすごいことなのです。先日はクロアチアへ行きましたが、また行く予定です。それから、セルビアや他の国へも行く計画です。先ほドルーマニアからも招待を受けました。それから、フランス、イギリス、ノルウェー、オランダ、メキシコ、カナダ、アメリカ、アジアでは日本、シンガポール、インドネシア、フィリピン、それからオーストラリアもです。様々な事が起こっています。時はどんどん迫っていて、神は動かれています。

そこで、私から皆さんにお聞きしたいことがあります。世界情勢から時が近づいているのは分かります。神が預言者を通して言われたことは確実に起こっています。

問題は、「世は準備ができているのか？」ではなく、

問題は、「神が行うと言われたことを実行されるのか」？でもなく、

問題は、「あなたは準備ができていますか？」「キリストの花嫁は、主が来られる準備ができていますか？」

これが 2017 年に私がお伝えする話のテーマだと思っています。私たちは用意をしなければならない、花嫁として備えなければならない、そして、主に「来てください」と言うのです。

17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」

(黙示録 22:17)

新年にこのメッセージをお伝えできることを楽しみにしています。また、クリスマスメッセージもお聴きください。私は 12 月 24 日にイエスが生まれたとは信じていませんが、せつかく世が主の誕生日を祝っているのだから、私は主の誕生に関するメッセージをお伝えしようと思います。その「日」についてではなく、キリストについて語り、聖書がどれほど素晴らしいことを私たちに伝えているかを語ります。というわけで、“The Day He Was Born”をお楽しみに。また、新年のメッセージは“The Spirit and the Bride say “COME!” ”

それから、年の暮れに当たって、多くの方が私たちを経済的にも支援してくださっているのを見て、大変励まされています。これによって、私は経済的な心配をせず、世界中を訪れることが可能となっています。国によっては、容易に渡航費を出せるところもありますが、——と言ってもお金の話をしているのではなくて、諸経費の話で——国によっては、教会がこういった諸経費を捻出できないところもあります。しかし、費用が出せないからと言う理由では、私は絶対に招待された教会を拒否しません。私は必ず引き受けます。私にとって、聖霊によって導かれなければならないことです。そして、教会の指導者からの招待がなければ応じません。私は裏口からではなく、正面から堂々と行きたいですから。そして、私は、それぞれの国でその教会の牧師を尊重します。そんなわけで、金銭云々の問題ではないのです。それから、多くの方が年末にあたって Behold Israel に献金しようと感じてくださったことに感謝します。それがなければ、2017 年に各国を訪れる予定はできませんでした。他に楽しみにしていることは、本を出版する予定で、タイトルは“The Last Hour”（最後の時間）。その他、これらの寄附金で私たちが計画していることは、スカラシップとして若者対象のイスラエルツアーに招待します。経済的に来られない人にも、それがイスラエルに来ることの妨げとならないように。その他の運営にも必要があり、皆さんには心より感謝申し上げます。そして何よりも、皆さんのお祈りでの支援に感謝しています。

もう一つお伝えしたいのは、次の Q&A に多くの方が質問を送ってくださって、それについても大変励まされています。まだいつとは決めていないのですが、恐らく日曜日、でもこの日はクリスマスなので、一日か二日延期するかもしれませんが、それより前に行くということはありません。現在ツアーの人たちと移動中ですし、その後もすることがありますから。それから、イスラエルのテレビ局への扉を、主が開いてくださいました。世俗的テレビ局です。私がクリスチャンであることを承知の上でのことです。私がそこで、聖書の視点で、聖書的な話をして構わないというのです。私は、「自分が信じていることを、はっきりと話せないのなら、行かない」と明確に伝えており、それでも招待を受けました。神は素晴らしいです！どうか私たちのために引き続きお祈りください。皆さんの愛とご支援とお祈りに感謝します。

地球上で最も低い場所・イスラエルの死海より、シャローム！引き続きご連絡ください。God bless you all! Shalom!

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジュー Amir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO